

# 政治と宗教のはざまの暴力

— 古代世界から現代まで —

1

## Overview

1. 政治と宗教——古代世界において
2. 政治と宗教の分化——西洋世界において
3. 現代——神権政治からリベラル・デモクラシーへ？

2

# 1

## 政治と宗教

— 古代世界において —

3

- 古代世界において政治と宗教は未分化・一体
  - 神権政治 (theocracy)
- 古代の国際政治における神々の役割
  - 神 (々) は元来、部族神
  - 神々の「翻訳」「異文化交流」
- 契約は、双方によって承認された神々の前で神聖な誓いとして交わされた。



ウィリアム・ブーグロー  
『ヴィーナスの誕生』(1879年)  
オルセー美術館

4

- エジプト・古代オリエント世界における「**神の像**」(god's image)としての王（支配者）



- 像=王の政治神学
- 一神教における偶像崇拜の禁止（否定）
- 神は表現することができない。政治神学の否定
- 「神」以外の何者も神としない（no other gods）。モーセの十戒
- 一神教のこの神理解が「宗教」概念の起源となる（政治と宗教の分離）。

5

## 2

# 政治と宗教の分化 — 西洋世界において —

6

- 背景：宗教改革（1517）  
三十年戦争（1618-48）



- ウェストファリア条約（1648）
- 史上初の多国間条約。現在の国際秩序の起源。
- 主権国家の**領土権**と主権国家による**相互内政不干涉**の原則。
- アウグスブルクの和議（1555）を徹底。「領主が領土内の宗教を決定する」（cujus regio, ejus religio）
- 主権国家は領民の**忠誠心**を宗教から国家へと移行させる必要があった。

7

- ウェストファリア体制がもたらしたもの
- 宗教は**公的な領域**から**私的な領域**へと移行（**世俗化**）。
- 主権国家は領土内の暴力手段（軍隊・警察など）を独占。
- 現代のテロはウェストファリア体制が前提とする「制度化された暴力」への暴力的挑戦となっている。

8

# 3

## 現代——神権政治から リベラル・デモクラシーへ？

9

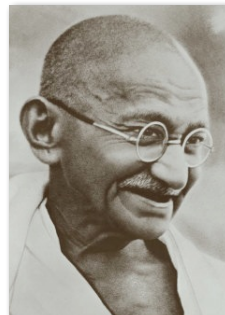
- 両極としての世俗主義と原理主義
  - 世俗主義 → リベラル・デモクラシー (**政教分離**)
  - 原理主義 → 神権政治 (例：イスラム法による統治)
- 宗教復興現象と政治への影響
  - 1979年、イラン・イスラーム革命。
  - 1981年、ロナルド・レーガン米大統領が宗教保守派の支援を受けて当選。



10

## 原理主義 (fundamentalism) の広義の理解

- 近代化・世俗化に抵抗しつつ、それを超える文明論的な原理を掲げる思想的・政治的な運動。広義の理解を踏まえることによって、異なる時代や地域に通底する共通要素を洞察することが可能となる。
- 例：ガンディーの**非暴力抵抗運動**
- 「広い意味で理解すれば、原理主義は、急激な時代の流れに巻き込まれたときに自らを押しとどめようとする「慣性の力」であり、また同時に、様々な堆積物によって流れがせき止められようとしたときに、それを決壊させる力でもある。」 (小原・中田・手島『原理主義から世界の動きが見える』159頁)



11

## 原理主義の狭義の理解

- ファンダメンタリスト (原理主義者) という言葉は、もともとは1920年代に、キリスト教保守派が**進化論**や近代的な**聖書批評学**と対決するために用いた「自称」であった。
- しかし、ホメイニーによる**イラン革命** (1979年) 以降、警戒すべきイスラーム運動に対して原理主義という言葉が転用され、原理主義といえば、「**イスラーム原理主義**」を指すようになった。そこには前近代的なニュアンスが刷り込まれている。イスラーム世界では「**イスラーム主義**」「**イスラーム復興主義**」などの言葉が用いられる。

12

## 日本の場合



- 神権政治からリベラル・デモクラシーまでを近現代において一気に経験した。
- 明治初期：神道を中心とする近代国家建設を目指した。失敗し、仏教なども取り込む戦略へ転換。
- 国家神道の形成：天皇を中心とした政教一致の国家体制
- 敗戦後、アメリカのデモクラシーをモデルとするが、政教分離については必ずしもアメリカ型ではない。憲法で平和主義を唱える。

13

## 【参考文献】

- 松本健一『原理主義』風人社、1992年。
- 白杵 陽『原理主義』岩波書店、1999年。
- ヴェルナー・フート『原理主義——確かさへの逃避』（志村恵訳）新教出版社、2002年。
- 小原克博・中田考・手島勲矢『原理主義から世界の動きが見える——キリスト教・イスラーム・ユダヤ教の真実と虚像』PHP新書、2006年。
- I. ブルマ、A. マルガリート『反西洋思想』（堀田江理訳）新潮新書、2006年。

14

# 4

## 今回の課題

- 『一神教とは何か』第五章「1 世俗主義と原理主義」、  
「2 政教分離」を読んでください。
- 上記箇所の内容と共に、今回学んだ、政治と宗教が一体化していた事例、政治が宗教を利用した事例、宗教が政治を利用した事例を踏まえて、暴力を抑止するための政教関係について、あなたの考えを述べて下さい。

15